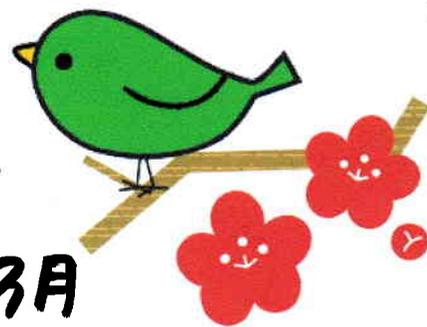


徳成寺

寺ともかわら版

第135号 2018年3月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

高松市役所の西側に、巨大な危機管理センターの建物が

完成し姿を現しました。折しも東日本大震災から7年が

経とうとしています。この大震災で一年前の時点で約2万人もの方が

お亡くなりになりました。ある方は「死者はいなくなったのではなく、死者と

なって存在している。生者には必ず死者と『出会い直す』時が来る。」と言って、

今は亡き人に向き合っておられます。そう言えば、NHK朝ドラ「わろてんか」も、

ヒロインが今は亡きご主人の仏壇に手を合わせ対話するシーンが幾度となく

出てきます。死者や他者と出会い直す場や機会を与えて下さるのが仏様

なのです。生者だけで、人生やこの世が成り立ってのではありませんね。

—発行責任者—

住職

大山健児

坊守

大山ひとみ



*子供おつとめ本を、ご希望の方はご一報下さい。

大山超世の耳を澄ませば

どうも、長男です。

1月、2月は厳しい寒さでした。スーパーで野菜が高騰し、四国でも路面凍結や積雪によって高速道路の通行止めが発生したり、高松市内で雪を積んだまま走る車に遭遇したりとなかなか見る事の出来ない景色が非常に印象的でした。

境内には手水鉢が置いてあります。本来は仏前や神前で身を清める為に手と口をすすぐ石の器なのですが、連日の寒さで朝方は完全に凍ってました。

人は滅多に起こらない事に遭遇すると有難いと言います。いくら文明が整備されていても人は自然の力には敵わないと言う事を身をもって知るという事はある意味では、ありがたい事なのかも知れません。

